

高尾山報

令和7年12月号

錦秋の気配深まり賑わう参道



吉田猥下と総裁・副総裁を囲む諸大徳の皆様

十一月二十一日から二十四日にかけて、真言宗智山派総本山智積院において、吉田宏哲化主猥下晋山記念傳法大会が行われました。

傳法大会では大本山成田山新勝寺の岸田照泰貫首が総裁を、大本山川崎大師平間寺の藤田隆乗貫首と共に、当山貫首が副総裁を務められ、二十一日に執り行われた傳法大会開白法要に出仕されました。

傳法大会とは、修行僧が真言宗の教義について問答を行うことで、教義の理解や解釈の度合いをはかるための法会です。

総本山智積院 傳法大会 当山貫首 臨席

社があり、江戸時代末期までは戸隠山・小菅山（長野県飯山市瑞穂）と並び「北信濃三大修験場」の一つとして隆盛を誇りました。

言うまでもなく、飯縄山は高尾山薬王院とも深く結びついています。高尾山薬王院は、南北朝時代俊源大徳（永和四年「二二七五」十月四日寂）が「飯縄大権現」を感得して中興されました。以来、真言密教と修験道が融合した道場として尊崇を集めています。今でも飯縄山麓にある大座法師池のほとりでは、毎年のように高尾山薬王院の僧侶を中心とする「飯縄火まつり」（八月十日）が執り行われ、世界平和をはじめとする諸願が祈られています。今年は、俊源大徳が再興されてからちょうど六五〇年。大きな節目の年にも当たっており、その恩徳に感謝する行事が続いています。

古くから飯縄山は、天狗が住まう霊山としても

信仰されてきました。謡曲「鞍馬天狗」には「飯綱の三郎、富士太郎」と見え、富士山に住む太郎天狗とともに、飯縄山の三郎天狗が登場しています。

三郎天狗にはさまざまな伝説がありますが、その中の一つである「天狗の麦飯」は、昔、全国的な大飢饉に襲われた年のこと。三郎天狗は飯縄山の土（砂）を食用に変えて日本国中に配りました。この土は「天狗の麦飯」とも、食べられる砂を意味する「飯砂」とも呼ばれました。飯縄山の名称は、この「飯砂」が由来となつていのです……という話です。

ここに登場する「天狗の麦飯」は緑藻類の一種で、古くから食用とされ、富士山や戸隠・飯縄など火山性の高地に自生していたものだそうです。修験者がこれを食べて、飢えを凌いだとも伝えられています（『日本国語大辞典』等参照）。

「天狗の麦飯」は、例え

ば産生地の一つである長野県小諸市のもなどは天然記念物に指定されています。現代では採取は固く禁じられています。が、かつては極寒の山野をめぐり歩いて修行をする修験者（山伏）の命を繋いだ特異植物であつたのでしよう。

時代は下つて文政元年（一八一八）八月、俳人小林一茶（一七六三—一八二七）は飯縄山で次の句を詠みました。

涼しさや
飯を掘り出す
飯縄山

（小林一茶『七番日記』）

飯縄山に吹きわたる秋風を肌に受けて、一茶もまた三郎天狗の神通力（超人的な能力）と温かな慈悲の心を感じていたのでしょうか。篤い信仰を継承する高尾山薬王院の御本堂を拝しながら、お山に満ちあふれる飯縄大権現さまの「霊妙な面影」を感じてみたいと思います。

（栃木北部教区普濟寺）

法の水茎

大正大学講師 高橋秀城

(162)

隔て行く
世々の面影
かきくらし
雪とふりぬる
年の暮かな

（『新古今集』
藤原俊成女）

（遠ざかる年月の思い出は、暗い空から降つてくる雪のようにはつきりしなくて、少しずつ古くなつてゆく年の暮であるよ）

今年も「年の瀬」を迎えました。この時期になると、早くも今年が終わつてしまふという寂しさと、また新たな一年が始まるという気ぜわしさが入り交じります。

思えば、春には梅や桜の花が咲き、夏にはホタルが飛び交い、秋には野山を彩つた紅葉の野山も、今は真っ白な雪に覆い隠されて、ひっそりと静まり返っているようです。

自然もまた人と同じように、途切れることのない生の営みを繰り返しているのではありません。

冒頭の歌にある「面影」とは「目の前にないもの、まるであるかのように目に浮かぶ様子」を表します。数々の思い出は時の移ろいととも薄らいでいきますが、「面影に立つ」という言い回しもあるように、記憶は心の奥底に重なり合つて、ふとした瞬間に呼び戻されるものでもあるのでしよう。

懐かしい面影に心を温めながら、来るべき新年を穏やかに迎えることができればと思います。

さて先月号では、東山道、中山道（木曾路）の宿場町に色づく秋景色に思いを馳せてみました。今月は少し脇街道に入つて「北国街道」と呼ばれる道のりを歩いてみたいと思います。ここで取り上げる「北国街道」とは江戸幕府によつて整備された道（脇街道）で、中山道の追分宿（長野県北佐久郡軽井沢町追分）から分岐して高田（新潟県上越市）、直江津に至る街道を指します。佐渡と江戸とを結ぶ重要な道でもあり、途中、善光寺を経由することから「善光寺道」（善光寺街道）とも呼ばれました。

善光寺と言え、牛に引かれて善光寺参り」という諺も思い浮かびます。昔、善光寺近くに住んでいた七十歳ほどの女性が、川で布を日に干しているとき、ちょうど放たれていた牛の角に布が引っかかり、取り戻そうと走つて後を追いかけてみると、いつの間にか善光寺という霊場に辿り着いていたという話が元となつて、「思いがけない導きによつて縁が結ばれること」を意味する言葉としても広く使われるよう

になりました。

善光寺周辺の地形に目を移せば、背後には「如来の御山」（長野市誌参照）とも称される朝日山（旭山・標高七八五メートル）と大峰山（大峰山・標高八二八メートル）が立ち並び、西側には山容が富士山に似ているところから名付けられたと伝わる富士ノ塔山（標高九二二メートル）が連なっています。さらに北西部を遥かに望めば、霊山として名高い戸隠山（標高一九〇四メートル）



紅葉も雪に覆われ季節は巡る

が聳え立つなど山岳信仰の聖地でもあります。

北国街道の善光寺宿をさらに進むと、牟礼宿（長野県上水内郡飯綱町牟礼）が見えてきます。牟礼宿は加賀（石川県南部）と江戸との中間の宿場町にあたり、佐渡金山からの中継場所としても賑わいを見せました。

牟礼宿の西方には、戸隠連峰の一つで戸隠山とも関わりを持つ飯縄山（飯綱山・標高一九一七メートル）が聳えています。山頂付近には飯縄神

今回は十一月十四日から十七日まで京都・六角堂の池坊で開催された「旧七夕会池坊全国華道展」に出展させて頂いた作品をご紹介します。
花形は生花新風体で、マユミ・マコモ・エリカの三種を用いて構成しました。
マユミは小さなピンク色の実が愛らしい枝物ですが、今年は葉もピンク色に紅葉し、より優しい風情を見せてくれました。また、マコモは秋に黄葉し、すっと伸びる姿が清々しく、作品全体に明るさと季節感を添えてくれています。
生花では花材として花を用いることが多いのですが、今回はマユミが持つ実の美しさを生かすため、あえて花を用いずに

いけばなの心 69

華道教授 佐藤 宗明

まとめました。枝・葉・実が織りなす静かな調べの中に、晩秋の趣が自然とあふれるよう心がけました。
本年もいけばなの作品を通して、季節の移ろい

と植物が持つ命の輝きをお伝えできましたこと、心より嬉しく思っております。
ご覧いただき、誠にありがとうございます。
皆さまどうぞ良いお年をお迎えくださいますよう、お祈り申し上げます。



花材：マユミ、マコモ、エリカ



古橋 怜子ちゃん



峯尾 彩永ちゃん・咲那ちゃん

七五三おめでとう



来山者の安全を祈り柴燈大護摩供が厳修された



佐藤 貫首による辻説法

秋の気配が次第に深まり、清らかな秋風が吹き始めた高尾山。当日は秋雨が地面を濡らすあいにくの空模様でしたが、ケーブルカー・清滝駅前では、高尾山を訪れる皆さまの安全を祈る「高尾山もみじまつり安全祈願祭」が厳かに執り行われました。
もみじまつりを主催する八王子観光コンベンション協会の加藤高白会長をはじめ、八王子市長・初宿和夫様、八王子市議会議長・美濃部弥生様、高尾登山電鉄株式会社や高尾山商店会の関係者の皆様が参列されました。
式典では、清滝駅前において柴燈大護摩供が厳修され、来山者の安全と共に、参列者並びに関係各位の諸願成就を祈念致しました。
その後、佐藤貫首による辻説法が行われ、日本遺産に因んだ内容のお話に、来訪者が静かに聞き入る姿が見られました。

高尾山もみじまつり 安全祈願祭 厳修

十月二十五日(土)



蛇滝(左)と琵琶滝(右)で行われた閉瀑式



閉瀑式 厳修

十月三十一日(金)

高尾山年代記

歴代山主の事跡をたどる

72

明治大学博物館 外山 徹

二十世岳純7 『八王子名勝志』その3

『八王子名勝志』の記述も、いよいよ山上の伽藍に至った。現在の四天王門の位置にあった、柱間に横木を渡したシンブルな黒塗りの門が「惣門」とされ、柵で隔てられたその奥の広庭に進む。

広庭の石造物

門内の左右には普請小屋があり、「諸堂諸社を修理す。普請絶える時は稀有の災いあり」と記される。以前はこの場所に道者休足所があった。度重なる堂宇營繕の必要から、用途が転用されたものだろうか。

広庭では石造物の記述が、前代の地誌・紀行文にはない新たな知見となる。安永二年（一七七三）造立の石燈籠は、草加宿

上がる石段右手脇にあり、『新編武蔵風土記稿』（一八二二）「多磨郡之部」成立）には同じ場所の水盤の記事が見えるが、その後新調されたことになる。現在、手水場は移設され、手水盤も新しくなっている。御護摩受付所の裏手崖際にあった蓮華院という堂の脇にあるという「大山道の石標」も、先の町標と並んで現存している。かつては、広庭から南に下りて相模大山へ参詣する道筋があった。

仁王門奥の平地

石段を登って仁王門をくぐった平地の伽藍については前代の地誌・紀行文からあまり異同はないが、新たな知見を記す。現在、大本堂向かつて左手奥の崖上に移設されている宝暦八年（一七五八）造立の唐銅宝篋印塔は護摩堂の前に立っており、写し取った銘文から十六世秀憲の発願による造立という来歴が判明する。護摩堂には弘法大師像が

安置されており、三月二日の御影供はこの堂で執行されるとする。その先、飯縄権現社へ登る石段の手前には高さ三尺（約九一センチ）、径一尺三寸（約三九センチ）の大鈴があった。この鈴は紀行文『多波の土産』（一八二八）に言及があるが、本書の挿絵から三鈴の形状がわかる。現在、寛永古鐘の側にある賀茂季鷹の碑が石段下の二之鳥居の下に描かれている。

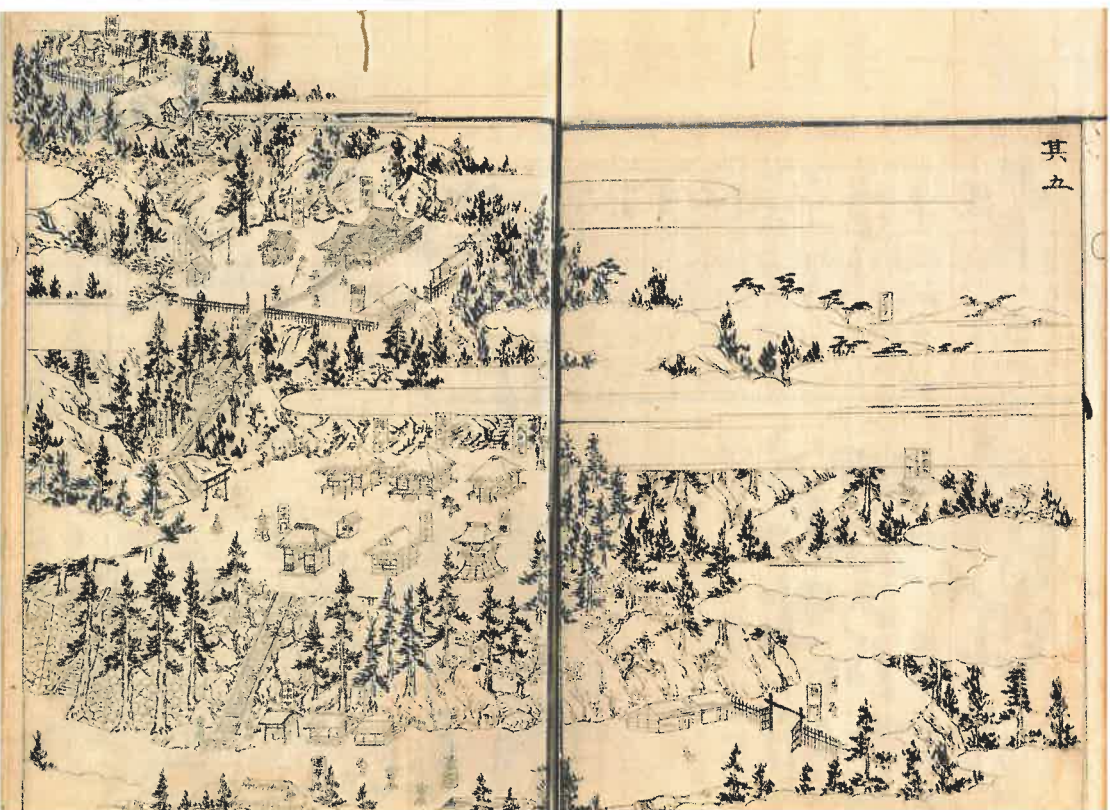
飯縄権現社

三巻には石段を二〇段登ったところの「飛飯縄」の記述があり、日野宿（東京都日野市）から飯縄権現が飛来したという伝承を記す。今も同じ位置に飯縄権現の石像が祀られている。現在はこの右に折れて後は真直ぐ登る石段は、当時、飯縄権現社の正面からは左手側に寄っており、三十六童子の手前の平地で左へクランク状に屈曲していた。屈曲部は石垣に囲われた

隘路状になっている。飯縄権現社の建築様式は前代の史料上に明らかであるが、屋根や回廊のリアルな描写は本書の挿絵が最初である。滝や風景に比べると堂宇についての修辭は乏しいが、ここでは「神威赫々」と顕れ実に輪奐たる所の社頭なり（三巻）」と特筆される。

社前には長さ七尺（約二メートル二センチ）の大錫杖があったとするが、先の大鈴とも現在地にはなく、幕末ないし第二次大戦時に供出された可能性がある。江戸時代の道中記からは、寺社境内に夥しい数の金属製の造作物のあったことがわかっていて、幕末から百年足らずの内にその多くが失われてしまった。

飯縄権現社拜殿に向かつて左手に奥之院への登り口があったことは、前代の地誌・紀行文も記しているが、それらの記事とも、現在とも様子が異なるのが奥之院である。

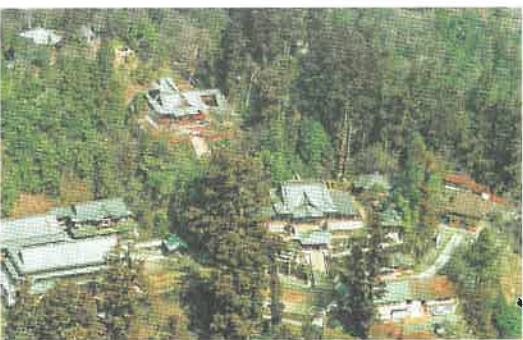


神社だった奥之院

まず「三ノ鳥居」の記述がある。文政一〇年（一八二七）に竹村立義が訪問した折には立ち入りが禁じられていたが、その後、修築の機会があり、新たに鳥居が建てられたのだろうか。実は、奥之院の記事は本書の四巻と三巻でも異同がある。先に成立し、草稿とされる四巻には「奥ノ院飯縄社」「大天狗小天狗社」「飯縄社」と立項されるのみに、説明がなく中途半端である。錠を鎖してみだりに登る

事を禁ず」とあるので、前代の地誌類を参考に仮の記述をしたものらしい。

三巻には「奥院飯縄大権現」の一社のみが、「高尾山の絶頂閑寂たる古杉の内にあり」と記される。「社は東面春日造り、四方高欄銅瓦に葺きなし」、四方を玉垣で囲われた神社様式の社殿であった。背面に不動尊と石尊の二体を安置するとあるが、『風土記稿』は飯縄本地社に「石の不動」が祀られていたとするので、それに相当するものだろうか。明治の神仏分離後となる山内絵図にも「奥ノ院」が描かれているが、明治一九年（一八八六）の南側斜面の崩落によつて被害を被ったか、その後、護摩堂が移設されて、現在の奥之院不動堂となっている。《参考文献》加藤典子「解題」（『八王子名勝志



1984・85年頃の薬王院境内空撮写真
左上が奥之院

二「八王子市教育委員会、二〇二五）おことわり 『八王子名勝志』は挿絵を掲載する第三巻の後半と、第四巻の前半に高尾山の記事が重複しており、四巻の記事の成立が嘉永二年（一八四九）と早く、安政四年（一八五七）頃にまとめられた三巻の草稿と考えられています。本連載では四巻を読み進めながら、適宜、三巻で増補された記事を加えています。なお、史料の引用については、適宜、読みやすく原文に手を加えています。

高尾山 季節散歩

和風月名
極月「ごくげつ」

十二月は一年の締めくくりに
当たる月であるため、その異名
にも「二年の終わり」を表すもの
が多く見られます。
中でも「極月」は、「極」という
言葉が示すように、「尽きる・
終わる」という意味を含み、まさ
に一年の最後を飾る月名として
ふさわしい呼び名です。

今月の風物詩
除夜の鐘

除夜の鐘は、大晦日の深夜に
全国の寺院で撞かれる鐘のこと
で、「二年の終わり」除夜」を
告げる日本の伝統行事です。
迷いや執着など、日々積もる
煩惱を一つひとつ祓い清め、新年
を安らかな心で迎えるという
願いが込められています。

健康登山者投稿作品

季節の絵手紙

「笑うが勝ち」

八王子市 峰尾里枝子

一步一步煩惱滅除

百八の階段を昇り、悩みや煩い事を取り除きましょう

四十七段 興味という心の芽を育てる

人生百年と言われる時代、だからこそ「自分が楽しいと
思えること」を見つけ、飽きずに続けていくことが、日々に
張りとし喜びを与えてくれるのではないのでしょうか。人生は
一度きりです。いろいろなことに興味をもってみましょう。



おはなし散歩道

神迎えと米つき

湯沢町 富樫 あい子

十二月一日は神迎えの
日です。

神迎えとは、十一月一
日に出雲大社に集まった
日本中の神様がそれぞれ
の神社に帰るといわれ
ている日です。

近頃、この日を忘れて
いる人が多い中、魚沼の
ひい爺さんは欠かさず神
迎えをしています。

リンは、ネズミのチュ
ウ助から春の薬師参りの
時、その話を聞いて、
「私も神迎えしたい」と
約束していました。

東京からの新幹線にも
慣れました、魚沼の家に
も慣れたリンは、
「ただいま！」玄関から
土間に入るなり「なにこ
れ？ ウサギの餅つきみ
たい！」白の中には玄米
が入っています。
「米つきじゃ」とひい爺さ
んがぼそつと言いました。

チュウ助が蔵から杵を
持ってきました。

「待っていたよ。リンちゃ
ん！ 米つきだ！」

神迎え用に今年の新米
を、昔のやり方で臼と杵
でついて精米します。

「昔は正月近くになると
臼を三・四個土間に並べ
て若い男衆が沢山の米を
ウサギの餅つきのよう
についたものだ……」

ひい爺さんが独り言の
ように語ります。

「神様に供えるのは精米
機でなく、杵つきじゃ」

ひい爺さんは臼の玄米
を手ですくいました。

「じゃ、始めるか！」
チュウ助の掛け声に、

「うん！」
リンとチュウ助は杵を
トントコ トントコと調
子よくついています。

ひい爺さんは、杵に合
わせて口ずさみます。

♪魚沼の薬師さまは
どこまでござった

♪くりくり山のふもと
まで白い馬に乗って
出雲からござくる

ござる

「いい歌ね。調子いい」
とリンは汗をぬぐいます

「ふたりとも上手だ！」
ひい爺さんが、杵つか
いを褒めてくれます。

「リンちゃん。もう少し
だ。だいぶ白くなった」
チュウ助が手にとって

「糠もいっぱい出た！」
「ほんと、白くなった」
リンもにつこりです。

ひい爺さんが、囲炉裏
から甘酒を持って来て、

「頑張ったな。これを飲ん
で休め。もういぞ！」
三人でひと休みです。

「美味しい！」
リンのほっぺがほころ
びます。ひい爺さんが昔

の話を始めました。
「米つきが終わると、新
しい俵がこの土間いっば
い並び、子供は俵の上に
乗って『大黒様』のまね
をして遊んだものじゃ」

リンは大黒様って？

浅見家子育観音法要厳修
十二月三日(月)



薬王院インスタグラム紹介

薬王院では、インスタグラムを用いて各種
行事や四季が移ろいゆく風景を、写真や動画
で御信徒様にお届けしております。

これからの様々な写真や動画を沢山アップ
していきますので是非ともフォローをお願い
致します。

下記のQRコードか
URLから
検索ができます。



TAKAOSAN_YAKUOIN

instagram.com/takaosan_yakuoin/

不思議な顔で、チュウ
助を見ます。

「五穀豊穰、商売繁盛の
神様だよ。大きな袋を肩
にかけ、右手に小槌を持
つ福の神だ！」

神様も役割があるのだ
とリンは思いました。

翌朝、つきたての米を
炊く良い香りがします。

三人で お結びを作っ
て氏神の

薬師様へ
神迎えの
お参りに
行きまし
た。

朝、早
いので薬
師堂に
止ってい
た鳥が三
人の足音
に驚いて
飛び立ち
ました。
本殿に入
り、ひい
爺さんが
お結びを
お供えし
本殿の両



観音菩薩の宗教

96

国際教養大学特任教授 金岡秀郎

如意輪観音(その34)―仏教の性別観

初期大乘經典の『法華經』『維摩經』は、それぞれ独自の形で女性成仏の可能性を説いてきた。それらが説いたのは、ブツダの男女平等思想に帰するものであった。かつてブツダは平等思想を説いたものの、部派仏教の時代になるとそれが歪曲され、制度的管理の中で男性優位が定着してしまいった。それをブツダ時代に回歸しようとした思想的運動が大乘仏教の眼目のひとつであった。

『法華經』『維摩經』のエピソードは不完全さを孕みながらも、女性であっても悟る可能性のあることを示すに至った(『観音菩薩の宗教』④、⑤)。またそれは、後に観音菩薩などが「女性化」する

思想的・宗教的根拠にもなっていた。

今号以降で取り上げる『勝鬘經』は、上記二經をさらに進め、すべての人には仏となる可能性である「如来蔵(tathāga tagarha)」が備わっていると説く。すべての人とは、カーストの貴賤や男女の差異を超越することにはかならない。言い換えれば、成仏の観点からは出自や男女の区別などが無意味ということである。

『勝鬘經』は中期大乘經典に属し、具名を『勝鬘師子吼一乘大方廣經』(Sūratadevī-simhanada-sūtra)と云う。漢訳やチベット語訳は伝存するが、一部の断簡や引用を除いてサンスク

リット語原典は未発見である。しばしば『勝鬘經』は女性のために説かれた女性成仏を主題とする經典とされてきた。その最大の理由は、『勝鬘經』の教主(教えを説く人物)が勝鬘夫人(シユリーマラーデーヴィー・Sūmaladevī)と云う女性であるからであるが、女性の救いが特化して説かれているわけではない(大角修『維摩經・勝鬘經』角川ソフィア文庫、二〇二二年、三九一頁)。あくまでも『勝鬘經』の主旨は如来蔵である。しかしながら、女性がブツダに代わって説法する形式は、部派時代には制度上も実際上もありえなかったことで、女性にとつて『勝鬘經』が重要な意味を有することはまちがいない。次号ではその面に視点を置いて論じるが、それに先んじて今号では『勝鬘經』以前に女性が



現代のテーリーとして尼僧教団を復興したスリランカのクスマ師 (Kusuma Devendra 1929-2021)。2018年撮影。
<https://present.bhikkhuni.net/bhikkhuni-kusuma/>

として登場してきたかを見てみたい。

ブツダの時代には、すでに女性が阿羅漢果を得たことが記録されている。当時は思想上の過去七仏を除けば、現世にあるのはゴータマ・ブツダただ一人であった。そのため、煩惱を滅し、悟りの境地に達した他の人々はブツダ(目覚めた人)とは呼ばれず、阿羅漢(アルハト arha)と称された。アルハトは「供養・尊敬を受けるに充分な人」の意味で、漢訳では「応供」とされる。阿羅漢は音写である。既述の如く、『観音菩薩の宗教』④、『テーリーガーター』には、阿

羅漢果に達した女性たちの言葉が伝えられており、それに対して阿羅漢の主体は男女を問わないとするブツダの寛容な理解も記されている。元遊女であった美貌のアンバパーリー (Ambapālī) や、当初は自らの美貌に溺れていたスンダリー (Sundarī) などはその実例で、阿羅漢果を得得てからは女性を特別視することなく、苦の滅尽や煩惱の焼尽を語っている。

余談になるが、筆者が大学院生時代に中村元訳の『尼僧の告白―テーリーガーター』(岩波文庫、一九八二年) が出版された。それを某教授が講

義中に取り上げて、微笑みながら「艶めかしいタイトルですね」と感想を述べた。蓋し、そうした語感を齎す背景には、ボツカッチ『デカメロン』など、中世ヨーロッパにおける修道女の破戒をテーマとする風刺文学の影響がある。例えば、同書の三日目第一話「マゼットと修道女」などは、修道女の背德的で淫靡なさまを滑稽に描いている。本来、カトリックには聖職者たる「尼僧」は認められておらず、敬虔な信者である「修道女(nun)」しかない。しかしいくつかの和訳を除いて、修道女を尼僧と訳しているものが多く、それらが背德的文学の流布とあいまって、尼僧に不名誉な語感を与えたのである。それに加えて、影像の世界でナンズプロイターシオン (nunsploitation) といわれる修道女の破戒・放逸や悪魔憑きを描く映画が作られ、それらの邦題に尼僧の語が使

われたことも、如上のイメージに拍車をかけた。例えば、原題が『修道院長天子たちのヨアンナ (Matka Joanna od Aniołow)』(福岡星児訳『尼僧ヨアンナ』恒文社、一九六七年、二四頁) というポーランド語の文学が和訳では『尼僧ヨアンナ』(前掲、福岡訳および関口時正訳『尼僧ヨアンナ』岩波文庫、一九九七年。関口は「原題は『尼僧長天子たちのヨアンナ』と解説している。同、二五九頁) とされ、一九六一年のポーランド映画でも邦題は『尼僧ヨアンナ』であった。これらもまた、日本における尼僧の語のバイアスを増幅させたと推定できる。

閑話休題。カトリックの修道女に対し、インド仏教のテーリーは正式に出家した女性僧侶である。従来、『テーリーガーター』のテーリーは、「長老尼」と訳されていた(増永靈鳳訳「長老尼偈經」『南伝大藏經』第25巻、

大蔵出版社、一九三六年。早島鏡正訳「長老尼の詩」『仏典』世界文学全集6、筑摩書房、一九六六年)。テーリー (therī) とは、比丘尼 (パーリ語で bhikkhuni、サンスクリット語で bhiksuni) の中の長老 (英語では elder nun とか senior nun と訳されるが nun も修道女の意) で、出家後10年を経た女性出家者に与えられる称号であった。男性形は テーラ (thera) と云う、男女ともに「上座」を意味し、後輩僧の上座に座することからそう呼ばれた。大乘仏教からの貶称であった小乗仏教 (Hinayana 原意は「捨てられた／劣った乗り物」) は、自称では上座部仏教 (Thera vada) と云い、テーラとヴァーダ (教説) の合成語であった。これよりすれば、テーリーの訳語として長老尼は正確である。また、ガーターは「歌う・詠う」を意味する動詞の派生語で、「歌・詩・韻文」を表す。漢訳

では偈とか偈誦とされ、音写して伽陀とされた。ガーターにはいくつかの形式があり、典型的なものは一行四音節を八行とするシュローカ (śloka) である。『テーリーガーター』の本文も韻文でシュローカ型が多いが、それが崩れた形や他の形式とすべきものもある。筆者が学生時代にサンスクリット語を教わった長柄行光先生は、インドのサンスクリット大学に留学され、サンスクリット語で会話ができる日本では稀有の碩学である。学生からは敬慕を籠めてバラモン・ナーガラと呼ばれており、先生がシュローカなどのガーターを朗々と称えるとサンスクリット初心者だった筆者にもその韻律の美しさが伝わってきた。

以上を勘考すると、『テーリーガーター』の直訳は「長老尼の詩文」であり、伝統的な邦題が適切であることがわかる。一方、中村元訳『尼僧の

告白』は原題からは若干乖離する。テーリーは本来、尼僧のうちの上座にある長老尼であるし、ガーターに告白の意味はない。本文中にもカトリック的な意味での「告白」に相当する語は見出せない。しかしながら、『尼僧の告白』はタイトルとしてキャッチであるし、女性出家者が解脱という心のうちを「告げて白す」という意味で相応しい。中村元自身は、「出版の便宜上」この「標題」で刊行したとし、原意は「長老である尼僧の詩」で『テーリー』は「長老尼」の意であるが、「解り易く『尼僧の告白』とした」と述べている(中村元『仏弟子の告白―テーラーガーター』一九八二年、岩波文庫、二九五、二九七頁)。

こうした女性僧侶の「告白」がはるか後世の『勝鬘經』の「教主」へと展開していくことになるが、このことは次号に述べたい。



大般若經を守護する十六善神の図

毎月二十一日 午前九時(於大本堂)
御志納金 一口 三千円以上

当山では、御本尊飯縄大権現様の日々の御加護に感謝するために、御縁日である二十一日に、沢山のお供物(百味)を捧げて、大般若経六百巻を転読し、供養申し上げる法要を執り行っております。

皆様の御志納を受け付けておりますので、ご希望の方は問い合わせ下さい。

尚、法要終了後に大本堂にて百味供養の御札を授与致します。

また、当日参加できない方にはお札の郵送も受け付けております。

神徳報謝百味飲食供 御志納のおすすめ



大本堂における
大般若経転読会



高尾山の昆虫

イシガケチョウ

終



イシガケチョウという、かつては西南日本に限定された、南方系の蝶がいます。

主に暖地に生息し、本州では紀伊半島以南、四国、九州、南西諸島に広く分布しますが、近年は温暖化の影響で少しずつ北上を続け中部地方はおろか関東でも目撃情報が寄せられています。

ナガサキアゲハも同様で、従来は見る事ができなかつた暖地性の蝶を、東日本でも容易に見られるようになったことに複雑な気持ちを抱きます。そんな中、高尾山でイシガケチョウに出会うとは思いませんでした。

俄に信じられず迷蝶なのか、分布を拡げているのか、人為的な放蝶なのか、頭の中を駆け巡りましたが、その後聞くとところでは三年程前から高尾山で度々見かけられているようです。

ただ産卵や幼虫の情報が無いため繁殖しているかは疑問ですが、長野県の高遠町では繁殖が確認されていますので、高尾山でも繁殖は可能だと思われまます。

和名は石崖(石垣)のような筋模様を持つエレガントは蝶であり、高尾山でも見られるようになったことは歓迎したい気持ちになります。

(文松島 孝 撮影上村 雅昭)

恩師・菊地正先生に学ぶ(13) 創作書おろし「八王子空襲擬人化物語」 涙の閻魔様と 奪衣婆様

八王子市 石井忠明

とんとんむかし
江戸時代、八王子宿の入り口の十王宿(現・新町)と呼ばれる場所に、立派な閻魔様が祀られていました。

厄除や無病息災に御利益があり、
「嘘をつくと
舌を抜かれる」
との戒めの言葉で子供たちの情操教育に役買っており、江戸時代以降も新町の閻魔堂として多くの人達の信仰を集めておりました。また、閻魔様の前には奪衣婆が鎮座して辺りを睨んでいました。奪衣婆は三途の川岸にいて送られてきた死者の衣を剥ぎ取り、その重さで生前に犯した罪を計っています。

昭和時代のある日のこ

その数日後の昭和二十八年八月二日、蒸し暑い真夜中のことでした。空襲警報のサイレンが鳴り響きました。一度目の警報は間違いだという噂が流れて人々はほっと一息、うとうとと浅い眠りについたその時でした。二度目の空襲警報がけたたましく鳴りました。状十二アメリカのB29爆撃機重い音を響かせながら現れ、八王子駅周辺の万町、東洋精麦所から爆撃が始まりました。市内は焼夷弾の爆撃で見る見る内に火の海と化し、多くの犠牲者を出しながら二時間ほどで空襲は終わりました。残されたのは、見るも無残な焼け野原となった光景でした。

な朝を迎えました。暫くすると下界から空襲で亡くなった人たちが続々とやって来ました。すると閻魔様は人間界で行った良い事、悪い事を映し出す浄玻璃の鏡を用意して、鏡をのぞき込んで見てみると、誰一人として悪人は映りませんでした。閻魔様は奪衣婆に言いました。

「悪人は誰も映らぬなあ」
すると奪衣婆は衣領樹という木に居る懸衣翁に言いました。

「今迄剥ぎ取った悪人の衣類を全部川岸にあつめてくれ！皆に着てもらい行ってもらおうのさあ」
すると閻魔様も優しいお顔になり、衣類を着せる手伝いをしていました。



再建された閻魔様と奪衣婆様
新町閻魔大王再建委員会提供

とんとんむかしは
へえしまい

丸焼けとなつてしまつた閻魔様と奪衣婆様の姿を長い間見ることができませんでしたが、平成の時代となると新町町会の有志により再建され、安置されています。

その後、八王子空襲で亡くなった四百五十人全員が極楽へと送られて行きました。



高尾山では正月期間（一月一日～一月三十一日）限定で「令和新春特別祈禱札」を授与致します。

近年は自然災害や疫病の流行等、様々な災厄が頻発する時代であります。しかしながら、年が改まり心機一転する正月を迎えるにあたり、種々の災いが少ない、明るい一年となるようにと、特に御祈願申し上げる次第であります。御信徒の皆様方におかれましては、この機会に是非御来山を頂き、新たな年の安寧を共に祈り下さいますようお願いいたします。

ご祈禱料は一体三萬円となります。

願意（お願い事）は「除災開運」のみとなります。

御来山当日でのお申込みも可能ですが、正月期間の御護摩受付所は混雑が予想されるため、事前にお申し込みも頂けます。また、御信徒様各位の御都合により高尾山へ御来山頂けない方の為に宅配でのお取り扱いもいたしておりますので、ご希望の方は下段の記事をご参照下さい。

新たな年の安寧を祈る 正月限定 新春特別祈禱札

御護摩札及び御守等 郵送・宅配申込方法について

当山では、年間を通して遠方の御信徒様や、高尾山へ直接御参拝することが難しい方々の為に、御護摩札をはじめ各種御守等を、郵送及び宅配にてお受けしております。

お正月御護摩札のお申し込みにつきまして同様に、お手紙やFAX、または「高尾山公式ホームページ」内の「御護摩札 郵送申し込み」からお申し込み頂けますので、ぜひご利用頂きますようお願い申し上げます。

また、各種御守りをはじめ、天狗団扇や熊手等のお正月限定の縁起物の郵送をご希望の際には、お電話にてお問合せ下さい。

お問い合わせ先の電話番号、FAX番号につきましては左記の通りとなりますが、ホームページのアドレス及びQRコードにつきましては、二十ページ下段に記載されておりますので、そちらをご参照下さい。

TEL 〇四二一六六一一一五
FAX 〇四二一六六四一一九

- 1 御護摩札のみ
 - 2 御護摩札及び御守
 - 3 御守のみ
- （御護摩係まで 郵送御守係まで）

御護摩修行のすすめ 皆様の諸願成就を祈願する

高尾山では大本堂に於いて、毎日御護摩修行をお勤めしております。

御護摩修行とは、護摩木という特別な薪を大導師が御護摩の炎の中に投入し、あらゆる煩惱を焼き浄めるために行われます。そして、御信徒の皆様への祈りが御本尊様に届けられ、皆様の諸願が成就するという修行であります。

御護摩修行を行った方には、御護摩札が授与されます。

大切にお持ち帰り頂き、御供物と共に清浄な場所に奉安礼拝して、一心に御宝号「南無飯繩大権現」とお唱え下さい。



古来より高尾山の御信徒は、自分のお願いが成就した時に感謝とお礼の意味を込めて、苗木を奉納する習慣があります。

今日でも、お杉苗奉納は続いており、参道の大杉原には、杉苗奉納者の芳名板が、板塀のように並んでおります。

高尾山では寺法において「殺生禁断」を第一義に、むやみに草木を切ることを厳しく戒めてきました。私達は信仰心と共に大自然を守り、また大自然から守られつつ共存共栄し、今日の景観を造りあげてきたということを、忘れてはならないと思います。

尚、毎年十二月十日までに、一万円以上を御奉納頂いた方のお名前を、翌年より掲示させて頂いております。

高尾山薬王院の御護摩札

(小) 15.5×長12.5cm		最大巾8.0×長35.5cm		最大巾8.5×長37.7cm		最大巾9.5×長42.3cm		最大巾12.0×長48.5cm		最大巾12.0×長54.5cm		最大巾14.3×長60.5cm	
(大) 10,000円 (中) 5,000円 (小) 3,000円		お護摩 3,000円以上		お護摩 5,000円以上		お護摩 10,000円以上		特別大護摩 30,000円以上		開帳大護摩 50,000円以上		特別開帳大護摩 100,000円以上	
交通安全 (ステッカー) (車内用札)		家内安全 高尾太郎殿		家内安全 高尾太郎殿		家内安全 高尾太郎殿		家内安全 高尾太郎殿		家内安全 高尾太郎殿		家内安全 高尾太郎殿	
交通安全 (ステッカー) (車内用札)		家内安全 高尾太郎殿		家内安全 高尾太郎殿		家内安全 高尾太郎殿		家内安全 高尾太郎殿		家内安全 高尾太郎殿		家内安全 高尾太郎殿	
交通安全 (ステッカー) (車内用札)		家内安全 高尾太郎殿		家内安全 高尾太郎殿		家内安全 高尾太郎殿		家内安全 高尾太郎殿		家内安全 高尾太郎殿		家内安全 高尾太郎殿	
交通安全 (ステッカー) (車内用札)		家内安全 高尾太郎殿		家内安全 高尾太郎殿		家内安全 高尾太郎殿		家内安全 高尾太郎殿		家内安全 高尾太郎殿		家内安全 高尾太郎殿	
交通安全 (ステッカー) (車内用札)		家内安全 高尾太郎殿		家内安全 高尾太郎殿		家内安全 高尾太郎殿		家内安全 高尾太郎殿		家内安全 高尾太郎殿		家内安全 高尾太郎殿	
交通安全 (ステッカー) (車内用札)		家内安全 高尾太郎殿		家内安全 高尾太郎殿		家内安全 高尾太郎殿		家内安全 高尾太郎殿		家内安全 高尾太郎殿		家内安全 高尾太郎殿	
交通安全 (ステッカー) (車内用札)		家内安全 高尾太郎殿		家内安全 高尾太郎殿		家内安全 高尾太郎殿		家内安全 高尾太郎殿		家内安全 高尾太郎殿		家内安全 高尾太郎殿	
交通安全 (ステッカー) (車内用札)		家内安全 高尾太郎殿		家内安全 高尾太郎殿		家内安全 高尾太郎殿		家内安全 高尾太郎殿		家内安全 高尾太郎殿		家内安全 高尾太郎殿	
交通安全 (ステッカー) (車内用札)		家内安全 高尾太郎殿		家内安全 高尾太郎殿		家内安全 高尾太郎殿		家内安全 高尾太郎殿		家内安全 高尾太郎殿		家内安全 高尾太郎殿	
交通安全 (ステッカー) (車内用札)		家内安全 高尾太郎殿		家内安全 高尾太郎殿		家内安全 高尾太郎殿		家内安全 高尾太郎殿		家内安全 高尾太郎殿		家内安全 高尾太郎殿	
交通安全 (ステッカー) (車内用札)		家内安全 高尾太郎殿		家内安全 高尾太郎殿		家内安全 高尾太郎殿		家内安全 高尾太郎殿		家内安全 高尾太郎殿		家内安全 高尾太郎殿	
交通安全 (ステッカー) (車内用札)		家内安全 高尾太郎殿		家内安全 高尾太郎殿		家内安全 高尾太郎殿		家内安全 高尾太郎殿		家内安全 高尾太郎殿		家内安全 高尾太郎殿	
交通安全 (ステッカー) (車内用札)		家内安全 高尾太郎殿		家内安全 高尾太郎殿		家内安全 高尾太郎殿		家内安全 高尾太郎殿		家内安全 高尾太郎殿		家内安全 高尾太郎殿	
交通安全 (ステッカー) (車内用札)		家内安全 高尾太郎殿		家内安全 高尾太郎殿		家内安全 高尾太郎殿		家内安全 高尾太郎殿		家内安全 高尾太郎殿		家内安全 高尾太郎殿	
交通安全 (ステッカー) (車内用札)		家内安全 高尾太郎殿		家内安全 高尾太郎殿		家内安全 高尾太郎殿		家内安全 高尾太郎殿		家内安全 高尾太郎殿		家内安全 高尾太郎殿	
交通安全 (ステッカー) (車内用札)		家内安全 高尾太郎殿		家内安全 高尾太郎殿		家内安全 高尾太郎殿		家内安全 高尾太郎殿		家内安全 高尾太郎殿		家内安全 高尾太郎殿	
交通安全 (ステッカー) (車内用札)		家内安全 高尾太郎殿		家内安全 高尾太郎殿		家内安全 高尾太郎殿		家内安全 高尾太郎殿		家内安全 高尾太郎殿		家内安全 高尾太郎殿	
交通安全 (ステッカー) (車内用札)		家内安全 高尾太郎殿		家内安全 高尾太郎殿		家内安全 高尾太郎殿		家内安全 高尾太郎殿		家内安全 高尾太郎殿		家内安全 高尾太郎殿	
交通安全 (ステッカー) (車内用札)		家内安全 高尾太郎殿		家内安全 高尾太郎殿		家内安全 高尾太郎殿		家内安全 高尾太郎殿		家内安全 高尾太郎殿		家内安全 高尾太郎殿	
交通安全 (ステッカー) (車内用札)		家内安全 高尾太郎殿		家内安全 高尾太郎殿		家内安全 高尾太郎殿		家内安全 高尾太郎殿		家内安全 高尾太郎殿		家内安全 高尾太郎殿	
交通安全 (ステッカー) (車内用札)		家内安全 高尾太郎殿		家内安全 高尾太郎殿		家内安全 高尾太郎殿		家内安全 高尾太郎殿		家内安全 高尾太郎殿		家内安全 高尾太郎殿	
交通安全 (ステッカー) (車内用札)		家内安全 高尾太郎殿		家内安全 高尾太郎殿		家内安全 高尾太郎殿		家内安全 高尾太郎殿		家内安全 高尾太郎殿		家内安全 高尾太郎殿	
交通安全 (ステッカー) (車内用札)		家内安全 高尾太郎殿		家内安全 高尾太郎殿		家内安全 高尾太郎殿		家内安全 高尾太郎殿		家内安全 高尾太郎殿		家内安全 高尾太郎殿	
交通安全 (ステッカー) (車内用札)		家内安全 高尾太郎殿		家内安全 高尾太郎殿		家内安全 高尾太郎殿		家内安全 高尾太郎殿		家内安全 高尾太郎殿		家内安全 高尾太郎殿	
交通安全 (ステッカー) (車内用札)		家内安全 高尾太郎殿		家内安全 高尾太郎殿		家内安全 高尾太郎殿		家内安全 高尾太郎殿		家内安全 高尾太郎殿		家内安全 高尾太郎殿	
交通安全 (ステッカー) (車内用札)		家内安全 高尾太郎殿		家内安全 高尾太郎殿		家内安全 高尾太郎殿		家内安全 高尾太郎殿		家内安全 高尾太郎殿		家内安全 高尾太郎殿	
交通安全 (ステッカー) (車内用札)		家内安全 高尾太郎殿		家内安全 高尾太郎殿		家内安全 高尾太郎殿		家内安全 高尾太郎殿		家内安全 高尾太郎殿		家内安全 高尾太郎殿	
交通安全 (ステッカー) (車内用札)		家内安全 高尾太郎殿		家内安全 高尾太郎殿		家内安全 高尾太郎殿		家内安全 高尾太郎殿		家内安全 高尾太郎殿		家内安全 高尾太郎殿	
交通安全 (ステッカー) (車内用札)		家内安全 高尾太郎殿		家内安全 高尾太郎殿		家内安全 高尾太郎殿		家内安全 高尾太郎殿		家内安全 高尾太郎殿		家内安全 高尾太郎殿	
交通安全 (ステッカー) (車内用札)		家内安全 高尾太郎殿		家内安全 高尾太郎殿		家内安全 高尾太郎殿		家内安全 高尾太郎殿		家内安全 高尾太郎殿		家内安全 高尾太郎殿	
交通安全 (ステッカー) (車内用札)		家内安全 高尾太郎殿		家内安全 高尾太郎殿		家内安全 高尾太郎殿		家内安全 高尾太郎殿		家内安全 高尾太郎殿		家内安全 高尾太郎殿	
交通安全 (ステッカー) (車内用札)		家内安全 高尾太郎殿		家内安全 高尾太郎殿		家内安全 高尾太郎殿		家内安全 高尾太郎殿		家内安全 高尾太郎殿		家内安全 高尾太郎殿	
交通安全 (ステッカー) (車内用札)		家内安全 高尾太郎殿		家内安全 高尾太郎殿		家内安全 高尾太郎殿		家内安全 高尾太郎殿		家内安全 高尾太郎殿		家内安全 高尾太郎殿	
交通安全 (ステッカー) (車内用札)		家内安全 高尾太郎殿		家内安全 高尾太郎殿		家内安全 高尾太郎殿		家内安全 高尾太郎殿		家内安全 高尾太郎殿		家内安全 高尾太郎殿	
交通安全 (ステッカー) (車内用札)		家内安全 高尾太郎殿		家内安全 高尾太郎殿		家内安全 高尾太郎殿		家内安全 高尾太郎殿		家内安全 高尾太郎殿		家内安全 高尾太郎殿	
交通安全 (ステッカー) (車内用札)		家内安全 高尾太郎殿		家内安全 高尾太郎殿		家内安全 高尾太郎殿		家内安全 高尾太郎殿		家内安全 高尾太郎殿		家内安全 高尾太郎殿	
交通安全 (ステッカー) (車内用札)		家内安全 高尾太郎殿		家内安全 高尾太郎殿		家内安全 高尾太郎殿		家内安全 高尾太郎殿		家内安全 高尾太郎殿		家内安全 高尾太郎殿	
交通安全 (ステッカー) (車内用札)		家内安全 高尾太郎殿		家内安全 高尾太郎殿		家内安全 高尾太郎殿		家内安全 高尾太郎殿		家内安全 高尾太郎殿		家内安全 高尾太郎殿	
交通安全 (ステッカー) (車内用札)		家内安全 高尾太郎殿		家内安全 高尾太郎殿		家内安全 高尾太郎殿		家内安全 高尾太郎殿		家内安全 高尾太郎殿		家内安全 高尾太郎殿	
交通安全 (ステッカー) (車内用札)		家内安全 高尾太郎殿		家内安全 高尾太郎殿		家内安全 高尾太郎殿		家内安全 高尾太郎殿		家内安全 高尾太郎殿		家内安全 高尾太郎殿	
交通安全 (ステッカー) (車内用札)		家内安全 高尾太郎殿		家内安全 高尾太郎殿		家内安全 高尾太郎殿		家内安全 高尾太郎殿		家内安全 高尾太郎殿		家内安全 高尾太郎殿	
交通安全 (ステッカー) (車内用札)		家内安全 高尾太郎殿		家内安全 高尾太郎殿		家内安全 高尾太郎殿		家内安全 高尾太郎殿		家内安全 高尾太郎殿		家内安全 高尾太郎殿	
交通安全 (ステッカー) (車内用札)		家内安全 高尾太郎殿		家内安全 高尾太郎殿		家内安全 高尾太郎殿		家内安全 高尾太郎殿		家内安全 高尾太郎殿		家内安全 高尾太郎殿	
交通安全 (ステッカー) (車内用札)		家内安全 高尾太郎殿		家内安全 高尾太郎殿		家内安全 高尾太郎殿		家内安全 高尾太郎殿		家内安全 高尾太郎殿		家内安全 高尾太郎殿	
交通安全 (ステッカー) (車内用札)		家内安全 高尾太郎殿		家内安全 高尾太郎殿		家内安全 高尾太郎殿		家内安全 高尾太郎殿		家内安全 高尾太郎殿		家内安全 高尾太郎殿	
交通安全 (ステッカー) (車内用札)		家内安全 高尾太郎殿		家内安全 高尾太郎殿		家内安全 高尾太郎殿		家内安全 高尾太郎殿		家内安全 高尾太郎殿		家内安全 高尾太郎殿	
交通安全 (ステッカー) (車内用札)		家内安全 高尾太郎殿		家内安全 高尾太郎殿		家内安全 高尾太郎殿		家内安全 高尾太郎殿		家内安全 高尾太郎殿		家内安全 高尾太郎殿	
交通安全 (ステッカー) (車内用札)		家内安全 高尾太郎殿		家内安全 高尾太郎殿		家内安全 高尾太郎殿		家内安全 高尾太郎殿		家内安全 高尾太郎殿		家内安全 高尾太郎殿	
交通安全 (													

令和八年 丙午（ひのえうま）
高尾山節分会追儺式参加申込の御案内

二月三日（火）

歳男・歳女 修行時間

第一回	午前七時半
第二回	午前九時
第三回	午前十時半
第四回	正午
第五回	午後一時半
第六回	午後二時半

尚、修行時間の三十分前、もしくは、定員になり次第受付を締め切らせていただきます。もし時間に間に合わない場合は次回の修行時間にお入り頂きますので、何卒、ご了承下さいませ。

冥加料（祈祷料）三万円

高尾山では、身上安全・事業繁栄・諸縁吉祥・除災開運など、諸願成就を祈念する恒例の節分会追儺式を執り行います。是非この機会に「歳男・歳女修行者」としてご参列賜り、「福は内」と声高らかに福豆をお撒き頂ければ幸いに存じます。福を招いて災厄を祓い、皆々様がより一層のご健勝にお過ごしになり、更なるご活躍されますよう、謹んでご案内申し上げます。



お申込みについて

ホームページのご案内
お申込みや資料請求につきましては、高尾山薬王院公式ホームページ上に掲載しておりますのでそちらをご参照下さい。

お電話でのお問い合わせ

節分会追儺式「歳男・歳女修行者」の詳細につきましては、不明な点がございましたら、左記担当窓口までお電話にてお問い合わせ下さい。

お問い合わせ 節分会追儺式 歳男・歳女係
電話〇四二（六六一）一一一五

西国四十九薬師霊場巡礼（9）

厚木市 荒井 一雄

冬遊霊山寺

南無薬師

瑠璃光如来と唱ふれば
如何なる病即消えゆかん

冬、霊山寺に遊ぶ

聖武天皇行基依

聖武天皇は皇女（後の孝謙天皇）の病氣平癒を行基菩薩に
依頼するも即快復す…

堂塔伽藍建築嬉

喜ばれし天皇は堂塔伽藍を建立す…
その後インド僧菩提僊那は
精力的に布教活動をす…

菩提僊那精布教

極楽浄土園薔薇

現在の薔薇園を歩けば正に
極楽浄土の真・只中に居るかの如き…

高尾山火渡り祭

（令和八年三月八日 日曜日）

柴燈大護摩供御壇木特別志納御案内

當山では毎年三月第二日曜日に春を招く恒例行事として、祈祷殿火渡り本尊ご寶前にて、高尾山修験道による火渡り祭が盛大に執り行われます。
火渡り祭とは、當山貫首大導師のもと、全国各地の霊山で修行を重ねた山伏が、一心に諸願成就の祈りを捧げる、関東屈指の大祈祷法要であります。
この浄行にあたり、御信徒の皆様方より柴燈大護摩供にて供される、御本尊・飯縄大権現様の功德を願す御壇木のご志納を一本二万円にて募っております。
ご信徒の皆様、並びにご講中の講員様方におかれましては、高尾山の浄行に大いなるご信託を賜りますよう、謹んでお願いを申し上げます。
尚、ご志納の証として、ご芳名を薬王院参道に二年間掲示致します。御志納方法についての詳細は、高尾山薬王院信徒部までお問い合わせ下さい。

電話 〇四二六六一二二五
FAX 〇四二六六四二九九

大本山 高尾山薬王院 信徒部

祈大願成就 身体健全

高尾 登



迎光祭のお知らせ

令和八年の迎光祭につきましては、薬王院広庭の境内地に祈願所を設けて実施致します。
迎光祭とは初詣にお越しになった大勢の方と共に初日の出を迎える行事です。僧侶の読経や山伏の法螺により、参列者の無病息災など一年間の安全を祈願して、新年を祝います。
大晦日から元日にかけて終夜でケールカーの運行が行われる予定です。晴天に恵まれますと、横浜方面から昇るご来光を拝することが出来ます。



御本尊・飯縄大権現様との御縁を深める

大本堂内結縁「内陣御納佛」奉安のご案内

高尾山では、御信徒様と高尾山御本尊・飯縄大権現様との益々の御縁が結ばれますように、大本堂内陣に御本尊様の御魂を宿した「内陣御納佛」の奉安を皆様にお勧め申し上げます。

お申し込みになりますと、御納佛との尊い結縁のしるしとしてご芳名を刻み、大本堂内陣壁面に奉安され、幾久しくご繁栄を祈念するものであります。

また、御納佛が壁面に満たされますと、その都度、内陣格子奥に移し大切に安置されるものであります。

御納佛冥加料

一体

五萬円

お問い合わせ 御護摩受付所

電話〇四二(六六一)一一一五



高さ13.5センチ 横幅9センチ

人車一体交通安全祈禱

高尾山麓 自動車祈禱殿

正月御祈禱時間

元日 午前0時より午後四時まで
二日・三日 午前八時より午後四時まで
四日～七日 午前八時半より午後四時まで

交通事故は偶然生ずるものでなく、多くの場合には、運転者並びに歩行者の心構え一つで防止できるものです。心に安らぎを得て、安定した気持ちで運転して頂く事が大事と考えております。

年に一度は、高尾山の山伏による人車一体の「おはらい」を受けることをおすすめいたします。複数台をお申し込みの場合には、事前にFAXにも受け付けております。



車と人が共に交通安全のおはらいを受ける

電話…〇四二六六一一一一八
FAX…〇四二六六二二二三五

◆お知らせ

正月から節分までの期間中は、繁忙期につき、蛇滝及び琵琶滝での滝行の指導は行いません。ただし、通常通り個人での滝行を行うことは出来ます。

また、同期間中は御回向や、不動院での御詠歌、月例写経会も実施されませんことを御了承願います。

年末年始ケーブルカー 終夜運転のお知らせ

今年度の大晦日(十二月三十一日)から元日にかけてのケーブルカー運行につきましては、左記の通りとなります。

十二月三十一日(大晦日)

八時～十七時三十分

二十時～翌朝始発まで終夜運行

※十七時三十分から二十時の間は運行が休止となります。

一月一日(元日)

通常ダイヤにて運行いたします。

ケーブルカーの運行につきましてお問い合わせがございましたら、高尾登山電鉄株式会社までご連絡いたします。

お問い合わせ

高尾登山電鉄株式会社
電話〇四二(六六一)四一五二
(受付時間九時～十六時半)

高尾山報助成金志納者御芳名(順不同・敬称略)

高崎市	中山	晃雄	新座市	彰山	粧麗
東村山市	池ヶ谷	益生	八王子市	酒井	二三
昭島市	大滝	みどり	足立区	千住	一神講
甲府市	丸山	よし子	横浜市	白石	悦子
仙台市	加藤	隆弘	相模原市	定本	京子
札幌市	堀	幸子	比企郡	勝又	文子
千代田区	工藤	好子	八王子市	川村	正義
世田谷区	高野	茂樹	小平市	関	道雄
横浜市	棚橋	和明	川崎市	谷口	順和
吉川市	飯島	和子	八王子市	石坂	和夫
塩竈市	小齋	祥子	板橋区	中山	正輝
八王子市	福島	元行	練馬区	阿部	善宏
入間市	角田	光一郎	熊谷市	坂巻	和身
八王子市	石川	慶子	行田市	大崎	エツ子
所沢市	北田	雅子	行田市	松本	信子
鴻巣市	木村	光一	前橋市	松本	恵美子
秩父市	横田	寿昭	高崎市	小池	武夫
邑楽郡	野村	耕一郎	東筑摩郡	竹内	由香
前橋市	小林	絢子	足立区	千葉	政男
長久手市	秦	康子	仙台市	中山	克己
八王子市	小池	まり子	上尾市	國嶋	福生
伊勢原市	佐々木	晋介	大田区	遠藤	岳博
東大和市	中川	武男	相模原市	近藤	良雄
八王子市	黒須	彰久	深谷市	高麗	憲司
川崎市	佐藤	泰一郎	八王子市	根岸	憲司
小平市	青木	勝	越谷市	秋山	誠
八王子市	池田	順子	川越市	豊嶋	郁洋子
八王子市	新井	茂二	大里郡	澤田	進
八王子市	新井	茂二	保泉	光勇	進

初詣 心のふるさと
祈りのお山 高尾山

一月行事日程

一日

迎光祭

元旦特別開帳大護摩供

一日～七日

聖天秘供(聖天堂)

七日、十九日、三十一日

弁天秘供

八日

仏舍利詣り(仏舍利塔)

十七日

蛇滝清龍様御縁日

二十一日

飯縄様御縁日

神徳報謝百味飲食供

二十五日

高尾山とんとんむかし
「語り部の会」

(十二時半山麓不動院)

二十八日

琵琶滝不動尊御縁日

奥の院開扉供養

(十時奥之院)

★お知らせ

一月中の月例写経会は
開催致しません。



【お願い】
お正月三ヶ日は、高尾山麓の国道二十号線は混雑が予想されます。
高尾山麓の駐車可能な場所が限られておりますので、マイカーでのご参拝はご遠慮ください。

——新春大護摩奉修特別時間——

	1日 木	2日・3日 金・土	4日 日	5日～7日 月～水	10日～12日 土～月(祝)	18日・25日 日	8日以降平日 17日・24日・31日
午前	0:00						
	2:00						
	4:00						
	6:00	6:00	6:00	6:00	6:00	6:00	6:00
		7:00					
	7:30						
		8:00	8:00		8:00		
	9:00	9:00	9:00	9:00	9:00	9:00	
午後							9:30
	10:00	10:00	10:00	10:00	10:00	10:00	
	11:00	11:00	11:00	11:00	11:00	11:00	11:00
	0:00	0:00	0:00	0:00	0:00		
						0:30	0:30
	1:00	1:00	1:00	1:00	1:00		
	2:00	2:00	2:00	2:00	2:00	2:00	2:00
	3:00	3:00					
			3:30	3:30	3:30	3:30	3:30
	4:00	4:00					

発行所
東京都八王子市高尾町2177
大本山
高尾山薬王院
郵便番号 193-8686
電話(042)-661-1115(代)
FAX(042)-664-1199
発行人 犬山秀康
編集人 菅井倫浩
印刷 ヒラツカ印刷社
毎月1回1日発行
1部50円

下記のQRコード
から高尾山薬王院
のホームページに
アクセスできます



高尾山薬王院ホームページ
<https://www.takaosan.or.jp>



★お知らせ
★お正月期間中は、御護摩受付所や大本堂周辺において大変な混雑が見込まれます。
特にお昼前後の御護摩修行には、大勢の御信徒様がお越しになることが予想されますので、混雑回避のために、お時間を調整しての御来山をお勧め致します。

◆お知らせ